



郷小だより

7月号



2021. 6. 30

学校教育目標 ～支えあう・聴きあう・学びあう～
 子どもたちが自分を再発見し、友だちを再発見し、学ぶことの価値と意味を再発見して「人生最高の6年間」を生み出す学校、そして、その営みを通して教師も親もともに育ちあう学びの共同体としての学校でありたい。



『あたたかな聞き方、やさしい話し方』

校長 高橋 勸

…とある地域団体の方から、広報紙と一緒にこんなメッセージをいただきました。
 郷小だよりは、ルビがふってあり、わかりやすく、心があたたかくなります。つい、コピーをしてしまいました。

いまだ3か月のヨチヨチ校長を勇気づけるには、これ以上ない言葉をいただきました。
 さて、ルビを褒められた私のように、「こうありたい」と願う自分に近づこうとして、子どもたちも、さまざまなことに挑戦し表出しながら日々を過ごしています。その姿から感じた事を言葉にして伝えてあげることが、子どもにとっても勇気づけられ励まされる経験になるのではないかと私は感じています

誰かが、自分を気にかけて認めてくれていると感じられる時、人はとても安心な気持ちになります。でも、コロナ禍による影響が続くのか、おとなにも余裕がなくなってしまう、やさしい言葉がけが減ったりはしないでしょうか。
 ヨチヨチ校長は最近、「あたたかな聞き方、やさしい話し方」というフレーズがお気に入りです。保護者のみなさまもおうちでちょっと意識してみてくださいませんか。お子さんとの毎日のやり取りに変化が生まれるかもしれません。

ところで、朝の正門で、最近耳にした話があります。
 浜之郷小の子どもたちは、他者（自分以外の人のこと）を大切できる人が多いです。登校の途中で転んだり泣いたりしている人がいると、つきそってくれたり、バンソウコウを渡してくれたり、助けを呼びに走ってきてくれたりします。「すてきななあ」と感じています。

でも、ときおり、気持ちかわからないふりをして、自分勝手にふるまう人がいるようです。通学路にあるビニールハウスや畑や田んぼ…入ることは「だめ」でも、人によっては探検してみたくなる場所があります。そして、「入っちゃだめだよ」と声をかけられても、その言葉と思いを受け取れない人がいるようです。

声をかけてくれるということは、あなたを大切に思っているというメッセージ。やさしく声をかけていただいている方々、ありがとうございます。そして、失礼をお詫びします。今後もしも声をかけようと思っただけならうれしいです。できれば子どもが受け取りやすい「やさしい話し方」でお願いいたします。(同じ郷小のお友だち同士で声をかけてくれる人がいることも聞いています！ありがとう！)

他に「通学路をふさいで歩いているけれどクラクションを鳴らすのも気が引ける。スケートボードを公道で使うのも危険。やめるよう話してほしい。」という連絡も。必要な言葉かけはおとなの愛情。通学の様子も聞きながら言葉かけしてみてください。